

2019年度 創立者古屋賞・山梨学院スチューデント オブ ザ イヤー賞 受賞者一覧

【創立者古屋賞】

No.	部門	氏名	学科	学年	所属	内容
1	創立者古屋賞	田中 秋桜	経	4	ホッケー部	・2018年 第18回アジア競技大会 優勝(インドネシア・ジャカルタ 2016/8/20~9/1) ・2019年 第41回女子全日本学生ホッケー選手権大会 優勝 (3年ぶり9回目) 優勝に大きく貢献、優秀選手賞受賞 *各種大会においてチームの中心選手として日本代表並びに本学の名声を高めることに大きく貢献した。
2	創立者古屋賞	小山 由梨奈	ス	4	サッカー部	・2017年度関東大学リーグ2部優勝 (得点を量産しチームの勝利に貢献、ベストイレブン選出) ・2019年度ユニバーシアード日本女子代表 (イタリア戦で2ゴール、日本の準優勝に貢献) ・2019年度関東大学リーグ全試合出場 (5得点3アシストで1部昇格に貢献、ベストイレブン選出) ・2019年9月JFAなでしこリーグ特別指定選手承認 (なでしこリーグ出場を果たす) *卒業後はAC長野パルセイロレディースに入団、将来が期待される。

【スチューデント オブ ザ イヤー賞・大学院】 ※本年度 該当者無し

【スチューデント オブ ザ イヤー賞・大学】

No.	部門	氏名	学科	学年	所属	内容
1	学術	佐野 愛美佳	法	4	金子大ゼミ	卒業論文「災害における環境被害の処理義務 ―東日本大震災を例として―」は、従来それほど議論が活発ではなかった(自然)災害と国際法との関連に対して、東日本大震災を契機として検討を加えようとする意欲的な論考である。 第一に、問題の所在が明確である。災害を原因として瓦礫が海洋に流出し、他国に漂着した場合の処理義務の問題を提示する。処理義務が前者の国家(ここでは「流出国」という)にあるのか、それとも後者の国家(同「漂着国」)にあるのかという点である。第二に、議論が慎重かつ実証的である。第一の点の一応の結論は、流出国に明確な国際法上の義務はないというものであるが、それは現行の諸条約や国連国際法委員会における審議状況、さらには国家実行等を丹念に分析して得られた結論である。しかしだからといってその法的状況を受容しているわけではない。著名な先例であるトレイル焙礦所事件や、民法上の無過失責任論から得られる定式を東日本大震災の事案に当てはめて、越境損害への対応を義務づけようとするという、着実な手法である。第三に、書籍類も含めてかなりの文献を渉猟している。十分な議論を展開しようとする意図が窺える。 他方で、不十分な点もないわけではない。本稿の問題の所在からして直接の射程範囲ではないが、災害被害の予防、未然防止の点にもある程度言及すべきではなかったかという点、さらにはトレイル焙礦所事件の判決理由より、直接に「処理義務」が発生するのか(賠償義務は発生するものの)、という点ももう少し検討すべきであった。 かような不十分さが散見されるにしても、本稿の意欲作たる性格は少しも減ぜられないと思われる。以上のような理由により、本稿は優秀な卒業論文であり、本学生は本賞に値するといえる。
2	学術	原田 遼太郎	政	4	小笠原祐司ゼミ	卒業論文「寮の生活課題の解決に向けた活動に関するアクションリサーチ」は、本学の国際寮をフィールドに行われたという点で興味深く、かつ有意義な論文である。国際寮に関する記述が詳細かつ具体的であり、外部の者には知りようがない、そこで起きている問題や情報が多く含まれている。結果として、この論文は読者を強く引きつける魅力を持っており、本学が目指すべき教育にマッチした最優秀論文として本賞に値すると思われる。 「学習環境としての大学寮」という理想が、本学に新設されたYGU HOUSEにおいてどのように実現できているのか、いないのか、自らResident Assistant となって現場に参入し、Action Researchを展開したもので、状況を観察・分析し、運営の実情と課題について詳しく明らかに出来ている。本学の問題を本学の学生として対象化し、しかも研究方法論的にもユニークな作品として完成されており、評価できる。 また、本論文は、依拠すべき先行研究の乏しい分野を手探りで模索したという点から、その開拓者精神も評価することができる。
3	学術	川口 琴音	経	4	青山貴子ゼミ	本論文「Iターン者向け定住促進施策としての家族型山村留学 ―山梨県早川町を事例として―」は、Iターン者向け定住促進施策として、家族型山村留学について検討した研究である。Iターン等の移住に関する既存研究を十分にサーベイし、それを踏まえた上で、早川町でフィールドワークを行った。自らの手で収集した1次データを分析して、山村留学の可能性と課題について説得的に論じている。理論と実践の往還を重視する経営学部の最優秀論文としてふさわしい研究内容である。
4	学術	立花 千鈴	管	4	古閑美奈子ゼミ	卒業論文「成人男女における食塩摂取量と食品・料理の摂取頻度との関連」では、山梨県の食塩摂取量が多い要因に着目し、山梨県民栄養調査のデータ分析に取り組んだ。調査結果のデータ分析にあたっては、栄養疫学および統計学的手法を基にし、公衆栄養分野の複数の論文を踏まえて食塩摂取が多い者の食事の摂取傾向を科学的に考察している。今後、減塩活動として展開できる具体的な栄養指導内容にも言及しており、地域貢献の観点からも優れた論文である。本論文の成果は、2020年2月29日に開催される2019年度山梨県栄養学術研究発表会(山梨県栄養士会主催)において示説発表を予定している。 卒業論文以外でも、小児糖尿病のサマーキャンプへのボランティア参加や、食品表示ウォッチャーの活動をするなど積極的かつ自主的な姿勢が高く評価できる。資格取得等にも積極的かつ意欲的であり、栄養教諭免許、食品表示検定、HACCP管理者等、複数の分野にわたる数々の資格を4年間で取得している。 就職においては、行政管理栄養士を目指して公務員試験に挑戦し、2021年4月1日に中核市となる松本市の管理栄養士職に内定している。本学生は、妊産婦から高齢者まで幅広い方々を対象とした公衆栄養活動に関わりたいという強い希望をもつ。今後、この希望を実現し、地域住民の健康増進に寄与することが大いに期待される。
5	学術	石田 真	国	4	Rosario Laratta ゼミ	本論文「The Evaluation of Manipulation in Modern Japan」は、資本主義を基盤とする現代日本において、政府が価値観や文化形成にどのように関与・操作しているかを考察したものである。 民衆の価値観や文化の形成において、教育やメディアが重要な役割を果たしていることは明らかだが、政府がそれらに対して如何に影響を及ぼし操作を行っているかについて、文化ヘゲモニー論、文化産業論及びプロパガンダ・モデル等からの見地を基に、独自の分析・議論を展開している点、また如何に民衆が政府の操作を受けやすい社会的体制になっているかを指摘した点が特筆できる。さらに、論文の主旨が一貫しており、かつ社会学、政治学、歴史学及びメディア学等、多角的な学術的視点から問題を捉えるという本学部の理念に合致する優れた論文として、高く評価できる。
6	学術	前田 隼弥	ス	4	菊山靖ゼミ	本学生は、2年次より「大学院進学を目指す」との意思を持ち、現在の所属ゼミ教員のもと、勉学に励んできた。研究会、学会大会、また大学院での勉強会など、学外での学びにも積極的に努め、所属ゼミではゼミ長として、ゼミの統括や他学生指導など様々な活躍した。家庭の事情により大学院進学は断念したが、高水準の卒業論文を執筆した。このように本学生は、強い意志、高い行動力、またリーダーシップを備えた優秀な学生である。 なお、本学部では、本賞推薦者を選考するため、学部長、学部長補佐、学年担任からなる選考委員会を立ち上げ、教員から推薦のあった対象者の卒業論文(研究内容)及び卒業研究発表会における発表スキルの評価を行った。その結果、学業成績(GPA)等も踏まえ、本学生が極めて高い評価(対象者中第1位)を受け、推薦候補者として選出され、学部教授会で承認されたのであり、本賞に値する。
7	その他、社会活動等	市原 弘康	ス	4	中垣浩平ゼミ	本学生は中垣浩平ゼミに所属し、3年次に第31回ランニング学会大会にて学会発表を行った(2019年3月)。「自律神経活動に応じたトレーニング内容の調整が無酸素性能力の適応に及ぼす影響」。また、2020年3月に開催予定の第32回ランニング学会大会においても、発表を予定している(演題登録済み)。「自律神経活動が運動時の生理応答及びパフォーマンスに及ぼす影響」。 本学部には大学院生がおらず、研究活動に対する身近なロールモデルはいない。このような環境において、2度の学会発表に取り組んだことは、本学の指針の一つに含まれる「チャレンジする意欲」が極めて高いと評価できる。研究内容も、新規性および独創性が高く、学会発表予定の研究内容(卒業研究)は、学術雑誌への投稿を予定している。 また、オープンキャンパスの際には、学会発表した研究内容を、ポスターを用いて参加高校生およびその保護者に対してわかりやすく説明し、本学部のアカデミックな側面をPRした。 以上、本学生は、学術、社会貢献(学会活動)、また本学部の魅力向上等、多方面に貢献している。

8	その他、社会活動等	フナハラ ユウジ 藤原 優司	ス	4	小山 さなえ ゼミ	<p>本学生は、本学部の第1期生であり、学部の成長・発展のために多大な貢献をした。</p> <p>学内活動では、「学生広報部(スポーツ科学部)」を立ち上げ、公式SNSを活用し本学部の活動実態を内外に発信した。また、毎年のオープンキャンパスでは、学生スタッフとして積極的に活動してくれた。さらに、本ゼミに所属し、ゼミ生から信頼されるリーダーとして各種スポーツイベントのボランティア活動に積極的に参加し、「2018年度 山梨学院学生チャレンジ制度」では、提案企画が認定され、実際に自分たちで企画・運営・広報等を行い、スポーツイベントを実施した。</p> <p>また、学外活動においては、長期においてヴァンフォーレ甲府のインターンシップにかかわり、同スタッフからの信頼も厚く、本学部との共催で様々なイベント企画および運営に携わってきた。また、インターンシップ生による「ヴァンフォーレ甲府プレゼンコンテスト」では最優秀賞を受賞した。</p> <p>さらに、学術面においても、「スポーツ産業学会 第28回大会アイデアコンペ」において「スポーツ庁長官賞」を受賞した。</p> <p>以上、本学部における本学生の活躍は枚挙にいとまがなく、こうしたこれまでの活動実績は高く評価できる。</p>
9	資格	イシイ トシマ 石井 聡馬	法	4	齋藤 雅代 ゼミ	<p>本学生は2年次に日商簿記2級に合格し、税理士になることを将来の目標と定めた。3年次から本格的に同試験の勉強に取り組み、法学部の授業を受けながらダブルスクールで同試験の講座を受講し、地道に勉強に励んできた。同試験では11科目のうち5科目に合格することが必要である。大学在学中にこれらの科目に合格することは難しいといわれているが、本学生は大学4年次に必須科目である「簿記論」および「財務諸表論」に見事合格した。さらに、卒業後の進路については、税理士になるために本学大学院社会科学部に進学することが決まっており、太郎良教授の下で税法の研究成果を挙げ、修士論文を完成させることができ、同試験の税法分野2科目の免除を受けることができる。現時点では同試験の2科目に合格しただけであって、税理士の資格を取得したわけではないが、大学在学中にここまで大きな成果を挙げることが極めて難しく、本賞に値する。</p>
10	その他、学内活動等	マサツ アカリ 増澤 あかり	経	4	小西 順人 ゼミ	<p>①留学生支援 本学生は、後期から、「日本語サポートデスク」にて、留学生の日本語スキル向上の支援やピアサポートに貢献した。「日本語サポートデスク」にて授業外の日本語学習支援に携わり、2019年後期に延べ46名の留学生の相談に応じた。これは、後期の支援担当者の中で最多である。学習支援では、プレゼンテーションの練習、レポートの協働推敲、日本語の宿題(日本人へのインタビュー)など、留学生の多様なニーズに応えた。また、本学生が企画した、9月入学生対象の課外面談「1on1フリートーク」では、留学生の学習意欲の質の向上や、日本語レベルの向上を目的とし、実数で12人とフリートークを行った。留学生の声、本音を増澤さんの報告から知ることができ、ピアサポートの必要性と今後の留学生支援に繋がるヒントを得た。グローバル化や国際共修を進めている本学において、本学生の貢献は多大であった。</p> <p>②オープンキャンパス 7回開催されたオープンキャンパスでは、全回、増澤さんがリードする形で、1年生の複数の学生に関わってもらうことで、非常に高い来場者満足度(GSスコア)を安定的に出すことができた。高校生向けと保護者対象のプログラムを用意する等、開催時期によって変化する来場者のニーズに合わせた情報提供を心がけていた。</p> <p>③S.S.A. 1年生面談をアクティブメンバー中心に担った。SSAアドバイザー候補生を対象とする研修会の講師役も務めた。増澤さんが担当した柔道部1年女子学生は、積極的に学習を進めている姿も見られた。ラグビー部3年男子学生と、簿記について週1回勉強会を行った。</p> <p>④就職 7社の内定を得た(マイナビ(業界2位)、ベネッセコーポレーション(業界1位)、ベネッセスタイルケア(業界1位)、ANA(業界1位)の中部国際空港グランドスタッフ、他3社)。就職先としては、マイナビを選んだ。</p>
11	スポーツ	エチゴロ 拓斗 乙黒 拓斗	法	3	レスリング部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京オリンピック フリースタイル65kg級代表内定</li> <li>・全日本選手権大会 フリースタイル65kg級優勝(2連覇)</li> <li>・世界選手権大会 フリースタイル65kg級5位</li> </ul>
12	スポーツ	ヤマナ リナ 山名 里奈	ス	2	スケート部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第39回東日本ショートトラック選手権(2019年11月/青森県八戸) 500m 1位、1000m 1位、1500m 1位、3000mSP 1位、総合完全優勝</li> <li>・第92回日本学生氷上競技選手権大会ショートトラック競技(2019年10月/野辺山) 1000m 1位、1500m 1位、3000mR 1位、大学対抗 総合優勝</li> <li>・第43回全日本選抜ショートトラック選手権大会(2019年11月/兵庫県神戸市) 1000m 2位、1500m 1位、3000mSP 2位、個人総合優勝</li> <li>・2019-2020 四大陸ショートトラック選手権大会(2020年1月/カナダ・モントリオール) 日本代表1500m 6位</li> </ul>
13	スポーツ	スズキ 勝治 鈴木 勝治	ス	2	陸上競技部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2019日本学生陸上競技個人選手権大会 10,000mW 優勝 39'58"13 大会新記録</li> </ul>
14	スポーツ	アヲノ 朱李 青野 朱李	ス	1	陸上競技部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IAAF世界リレー選手権2019横浜大会 女子4×200mリレー(第4走者/アンカー) 1分34秒57 *日本新記録樹立、第4位入賞 女子のリレー種目が世界大会で入賞したのは史上初の快挙である。</li> </ul>
15	スポーツ	ウツノ 陸 浦下 陸	経	4	ホッケー部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第68回男子全日本学生ホッケー選手権大会 優勝(5年連続 7回目) 主将として優勝に大きく貢献し、優秀選手賞を受賞した。</li> </ul>
16	スポーツ	オモテ 桜子 尾木 桜子	政	4	ホッケー部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第41回女子全日本学生ホッケー選手権大会 優勝(3年ぶり9回目) 優勝に大きく貢献、優秀選手賞受賞</li> <li>・2019関東学生ホッケー秋季リーグ 優勝(51季連続51回目) 優勝に大きく貢献、最優秀選手賞受賞</li> <li>*さくらジャパン候補選手として国際大会に数多く出場した。東京五輪出場の可能性が極めて高い。</li> </ul>
17	スポーツ	タカハシ 瑠璃 高橋 瑠璃	ス	1	柔道部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界ジュニア柔道選手権大会 78kg超級 優勝</li> <li>・世界ジュニア柔道選手権大会 団体優勝</li> <li>・全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 78kg超級 優勝</li> <li>・全日本学生柔道体重別選手権大会 78kg超級 2位</li> </ul>
18	スポーツ	タカハシ 洗輝 高橋 洗輝	ス	2	水泳部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第61回日本選手権(25m)水泳競技大会 優勝 男子1500m自由形 記録14分56秒22</li> </ul>
19	スポーツ	ヤマモト 由真 山本 由真	ス	4	バスケットボール部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャプテンとして積極的に練習に取り組み、コート内外でチームを牽引した。一部昇格への原動力となった。</li> </ul>
20	スポーツ	アベ 優澄 阿部 優澄	ス	4	サッカー部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第52回東京都大学サッカー1部リーグ 優勝に貢献した。 優秀選手賞受賞(計16ゴール、得点王)</li> </ul>
21	スポーツ	スズキ 日奈子 鈴木 日奈子	経	3	サッカー部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーシアード日本女子代表に選出され、日本の準優勝に貢献した。</li> <li>・関東大学リーグに全試合出場し、2部優勝1部昇格に大きく貢献した。</li> </ul>

【スチューデント オブ ザ イヤー賞・短期大学】

No.	部門	氏名	学科	学年	所属	内容
1	学術	稲垣 風子	食	2	岡本 裕子 ゼミ	<p>本学生は1・2年生の成績が、常に学年で1・2番という成績優秀な学生である。2年時のゼミナールでは、1型糖尿病サマーキャンプの栄養スタッフのリーダーとして、短期大学1・2年生、他大学(文教大学生)の学生をまとめ、野外炊事、夜食作り、また栄養教室等を行い、リーダーとしての責任を立派に果たした。また、在学中にレストランサービスの資格取得を目指して活動し、学科及び実技試験に合格。見事に目標を達成し、同資格を取得した。このように、学生生活において積極的に学ぶ姿勢を常に持ち学業に励んでいた。</p> <p>また、性格は温厚であり、誰からも好かれるやさしい人柄の持ち主である。</p> <p>以上より、同学生は、学業及び人間性の双方に優れ、学生の模範となる人物である。</p>
2	資格	秋山 萌	専・保	2	中野 隆司 ゼミ	<p>保育士資格、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状を、極めて優秀な成績をもって取得見込みである。また、山梨県教員採用試験(小学校)に現役で合格を果たし、新年度から県内の小学校に勤務予定である。</p> <p>短期大学保育科及び専攻科を通じて、トップレベルの成績である。また、授業におけるグループ活動などにおいては、自己の考えを明確に示しつつ、他者の意見、価値観や立場の違いを尊重し、多角的で客観的な視点をもって課題解決に尽力する姿が見られ、他の学生の模範となる存在であった。</p> <p>教育実習や現場研修においては、自己の課題をもちつつ主体的かつ積極的に自分の役割や職務を果たそうとする姿勢が、現場の先生方からも高く評価された。本学生は、子どもたちの人格形成に重要な役割をもつ教師という仕事にやりがいを感じており、教育に対する強い情熱をもっていることから、教職に就いた後もその活躍が期待される。</p>